

グリース潤滑

給脂間隔は、使用条件や使用環境により異なります。通常使用の場合、走行距離100kmを目安に給脂してください。

通常は直動システムに設けられたグリースニップル、給脂穴により同系のグリースを給脂してください。異なるグリースを混合した場合、ちょう度の増加など性能に支障をきたすおそれがありますので、ご注意ください。

潤滑剤	種類	商品名
グリース	リチウム系グリース(JIS 2号) ウレア系グリース(JIS 2号)	AFAグリース (THK) A24-7 参照 AFB-LFグリース (THK) A24-8 参照 AFCグリース (THK) A24-10 参照 AFE-CAグリース (THK) A24-12 参照 AFFグリース (THK) A24-14 参照 AFGグリース (THK) A24-18 参照 AFJグリース (THK) A24-20 参照 アルバニアグリースNo.2(昭和シェル石油) ダフニエポネックスグリースNo.2(出光興産) 相当品

※使用条件や環境などにより推奨するグリースが異なります。詳細は、**A24-6**～**A24-23**をご参照ください。

油潤滑

油潤滑の場合、防錆油のみ塗布した状態で納入するためご注文時にご指示ください。

(LMガイドの取付姿勢が水平使用以外の場合は、油のまわりにくい転動面があるためLMガイドの取付姿勢をTHKまで必ずご連絡ください。LMガイドの取付姿勢については**A1-12**をご参照ください)

- 給油量は、ストローク長により変化します。特にストロークが長い場合は給油頻度を上げるか油量を増やし、ストロークエンドまで転動面に油膜を形成させるように調整してください。
- クーラントが飛散する箇所では、潤滑油とクーラントが混在した状態で使用されるため、クーラントが潤滑油を乳化させたり、洗い流したりし、潤滑性能を著しく低下させることがあります。こうした箇所では、粘度が高く(動粘度68cst程度)抗乳化性の高い潤滑油を使用して、潤滑頻度または給油量の増量調整をしてください。
工作機械のように、重荷重、高剛性、ハイスピードを必要とする場合は、油潤滑を推奨します。
- 潤滑配管の末端部(直動システム各製品の給脂口取付部)における、潤滑油の吐出確認を実施してください。

潤滑剤	種類	商品名
オイル	摺動面油またはタービン油 ISOVG32～68	スーパーマルチ32～68(出光興産) バクトラオイルNo.2SLC(エクソンモービル) DTEオイル(エクソンモービル) トナーオイル(昭和シェル石油) 相当品